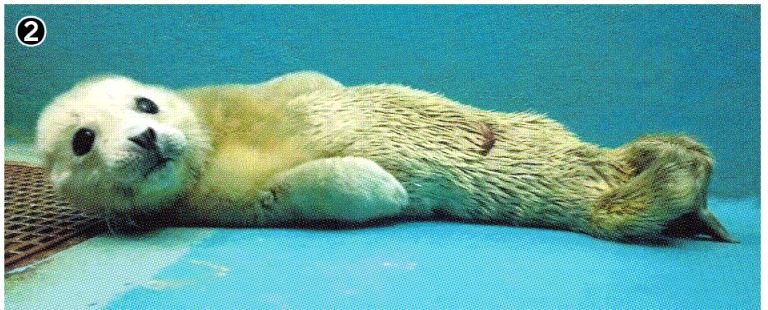


①生後1週間のゴマリンに
ミルクを与える様子②生後
3日のゴマリン。熱が下が
って落ち着いてきた③4歳
になったゴマリン



生まれたばかりの哺乳類の赤ちゃんにとって、お母さんのおっぱい（母乳）が飲めるかどうかはとても大切なことです。もしも飲めなければ、生きていくことができません。ゴマファザラシの「ゴマリン」が生まれたのは、2018年3月13日の真夜中でした。飼育員はカメラ越しにそっと見守ります。おっぱいを探す様子が少し見られたものの、すぐにやめてしまい、ぐったりと動かなくなってしまうました。体温を測ってみると、高熱が出ています。迷う時間はありません。すぐにお母さんから離し、治療と人工哺育を始めることにしました。

アザラシの赤ちゃん 母乳飲めず人工哺育

まず感染症や脱水を治す薬を点滴すると、熱が下がり落ち着いてきました。口から胃までチューブを入れ、海にすむ哺乳類用のミルクを注射器で流し入れました。このミルクはもともと脂肪分たっぷりですが、それでも弱った赤ちゃんには足りず、サーモンオイルを加えました。20日たつと、生まれた時8gだった体重は20gに。魚を食べ始め、泳ぎも上達してきました。赤ちゃん特有の白っぽい毛で覆われていた体も、大人と同じゴマを振ったようになまだら（斑）模様が出てきました。4週間後、一気に白い毛が抜け落ち、立派なゴマ斑模様になりました。4歳になったゴマリンは、福岡から来たオスの「マスオ」と2年前から一緒に過ごしています。ゴマファザラシは3歳ごろから赤ちゃんを産むことができるようになります。お母さんになる日もそう遠くないかもしれません。（海獣展示係主査、獣医師・大塚美加）